

防錆管理士養成講座

通信教育

第65回 防錆技術学校
募集案内

後援

経済産業省

国土交通省

日本商工会議所

一般社団法人 日本防錆技術協会

<http://www.jacc1.or.jp>

受講のすすめ

ますます重要となる防錆防食技術

橋の崩落など世界各地で設置後50年を経過したインフラが、老朽化により大きな事故を起こしています。日本では、劣化による橋梁の通行止め、標識、信号機が根元からの倒れる事故、水道管の破裂など金属の腐食による事故が多くなっており、知らない間に腐食が進んだために強度が低下するなど、様々な要因が複雑に影響しています。現在使用中のインフラを廃棄すべきか、補修で対応すべきか、新規に構築しなおすか、経済性の評価とともに、安全性をいかに確保してゆくか、大きな課題となっています。また、工場施設、プラント設備なども同様です。

日本ではゲリラ豪雨、集中豪雨、地震などの災害への対応も急務と言われており、ひとたび自然災害に見舞われると交通機関、電気、ガス、水道などインフラへの影響が生活基盤を損ない、多大な損失を強いられることとなります。事後処理ではなく、現状と今後のニーズ、経済性に併せ予防保全が求められています。

防錆技術学校では、多岐にわたる技術について共通過程で腐食の理論、環境がもたらす影響、現存する基本技術について基礎を学び、さらに専攻過程で個別の技術を学びます。防錆防食技術を横断的に教育する機関が不十分であるため、通信教育にもかかわらず高学歴な受講生が増加しております。宇宙での活動においても金属材料が使用され、酸素、水が存在すれば、腐食問題が発生します。また、集積化が進む電子部品では、些細な腐食が大きなシステムをも停止させてしまいます。このように、防錆防食技術は、先端産業から家電製品、輸送機器、プラント、ライフラインと幅広く活用され、対応技術も施設防食、防錆塗装、めっき、防錆包装と幅広く対応しております。そのため、一部インフラの整備では、施工時に防錆管理士を参加させるように指示する施主も増加しております。

当会では、64年前に防錆技術学校を開校し、防錆防食の専門技術者「防錆管理士」を養成、既に1万6千918名の資格者が国内外の第一線で活躍しています。

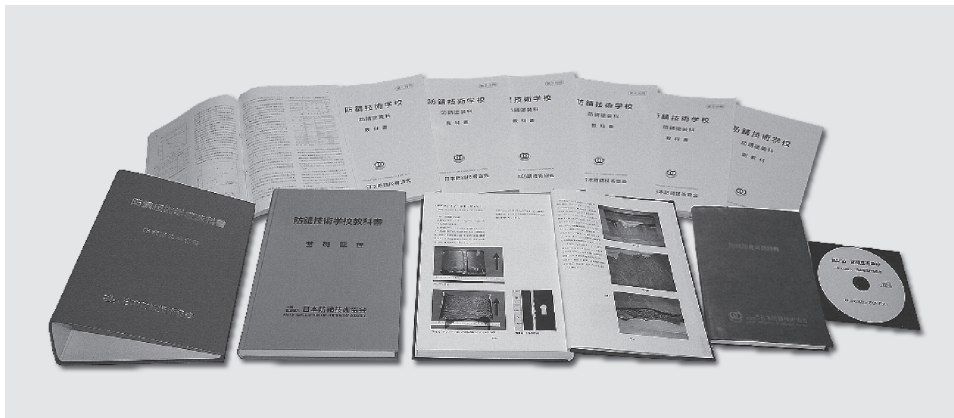
防錆技術学校の重要性は、広く認識され、経済産業省、国土交通省、日本商工会議所の各省庁からも毎回後援をいただき開校しております。

少子高齢化の進展に伴い、人材の育成や技術の継承が困難になって来ております。現場で実務にかかわる人を対象とした防錆技術学校は、社内の人材育成により確実な技術継承を可能にし、ノウハウを若手に引き継ぎ、防錆防食技術をもって社会を豊かにするための社員教育として活用いただける内容となっております。また、個人にあっては、ご自身の技術力の証に、是非、当通信教育（防錆管理士養成講座）を受講され、防錆防食技術をマネジメントできる技術者（真の防錆防食技術者）になられることをお勧めいたします。

「防錆管理士」資格

防錆管理士資格とは、一般社団法人日本防錆技術協会が経済産業省、国土交通省等の後援を得て実施する防錆管理士養成講座において、共通課程、専攻課程の全科目において防錆管理士認定基準に達するとともに、面接講義の全日程に出席し、筆記試験及び防錆管理士認定論文審査に合格した修業者に授与される権威ある資格であります。

防錆管理士に認定された方々は、16,918名となり、その卓越した専門知識を生かし、建築、土木、電力・通信・ガス、機械、化学、自動車、プラント、電気・電子、運輸・物流などのあらゆる産業分野の設計、製造、施工、検査、管理の各部門で防錆防食技術のスペシャリストとして活躍し、確固たる地位を築いております。



修業式



教育の概要

4月から翌年3月までの**1年間の通信**（郵送）による教育です。通信制ですから「いつでも、どこでも」学習することができます。

教育は、**共通課程**と防錆防食専門分野別の**専攻課程**からなっています。

共通課程では、防錆防食を学ぶために知っておかなければならない腐食の定義、金属の腐食と電気化学、腐食の種類、環境と腐食、耐食材料、防錆防食法などを学習します。また、参考資料として高校程度の化学講座をCDに収めておりますので、必要な時に、見直すことにより、学ぶことができます。

専攻課程には、**施設防食科・防錆塗装科・防錆塗装科別科・めっき科・防錆包装科**の5科があり、この中から希望する科を**受講申込時**に選択します（複数の科を同時に受講することもできます：追加受講）。

専攻課程では、共通課程で学んだことをもとに、科目専門の講師が指導にあたります。各科は、それぞれ、15の専門科目で編成され、詳しく記述された教科書と丁寧な通信指導により、深い知識が得られます。

理解度を把握していただくために、各設問に対するレポートを提出いただき添削指導を行うとともに、新技術、新情報を面接講義形式で指導してまいります。

防錆技術学校スケジュール

行 事	日 程
募 集 期 間	令和7年 3月25日(火)まで
開 講	〃 4月1日(火) (第1回教材発送日)
教 育 期 間	〃 4月1日(火)～令和8年3月6日(金)
共通課程	〃 4月1日(火)～7月上旬
学習指導(希望者)	〃 5月14日(水) (東京会場)
〃	〃 5月16日(金) (大阪会場)
専攻課程	〃 7月中旬 ～令和8年2月中旬
面接講義(必須)	〃 9月4日(木)～5日(金) (大阪会場)
〃	〃 10月2日(木)～3日(金) (東京会場)
認定論文作成期間	〃 11月上旬 ～令和8年1月中旬
修 業 式	令和8年 3月6日(金) (修業証、認定証授与)

※日程には、変更が生じる場合があります。

面接指導

1. 学習指導

共通課程の講師による学習指導（希望者）を行います。学習からしばらく遠ざかっていた方の共通課程の理解を助けます。

2. 面接講義

面接講義（必須）では、新技術や新情報について、各科専攻課程の講師や専門の講師が講義と質疑応答による教育を行いますので、通信教育に不足がちな講師とのコミュニケーションを得ることができます。

共通課程

共通課程では、腐食と防食を理解しやすいように、金属の構造と特性、電気化学の基礎、金属の腐食と電気化学、不動態と電気化学、腐食の原因と腐食形態から理解を始めます。ここで、ご自分で見てきた腐食がどのようにして生じたのか、他にも様々な腐食があるのだな、と理解できます。

続いて、環境との関わりあいについて学びます。近年、異常気象による気温の上昇と結露、台風の上陸による塩害など、工場内環境、倉庫環境、工事環境が大きく変化しております。環境と腐食では、大気、淡水、海水、土壌、その他の環境と金属が使われる様々な環境において、腐食とどのような係わり合いがあるのか。また、金属材料、金属以外の耐食材料は、どのような特性を持っているか、防食設計の考え方、金属材料を腐食から守るための防錆防食法の原理と方法について理解し、それぞれの専攻課程で応用する能力を養います。

学習科目と内容

科目	科目内容
1 腐食の基礎理論Ⅰ	金属の構造と特性、電気化学の基礎、金属の腐食と電気化学、不動態と電気化学について学習します。
2 腐食の基礎理論Ⅱ	均一腐食、局部腐食、濃淡電池による腐食、異種金属接触腐食、すきま腐食、応力腐食割れ、擦過腐食等について腐食の形態、腐食の原因、機構、現象について学習します。
3 環境と腐食	大気、淡水、海水、土壌、その他（主に化学）に分類し、それぞれの環境の特徴と金属の腐食について学習します。
4 耐食材料	金属の特性から見た腐食や耐食性、主な耐食材料の特性及び樹脂の耐食性について学習します。
5 防錆防食法	防錆防食技術について基礎的な原理、概要、防錆防食設計及び塗装・ライニング、金属被覆、環境処理、防錆包装、電気防食法について学習します。
腐食形態写真集	大気中における鉄鋼、銅、ステンレス鋼、亜鉛を対象に、様々な腐食形態の写真と腐食がどのような条件で発生したのかを解説。通気差電池腐食、溝状腐食、すきま腐食、粒界腐食、脱成分腐食、応力腐食割れ、水素誘起割れ、腐食疲労、エロージョン・コロージョン、擦過腐食、高温腐食。その他ニッケルめっきの孔食、CASS試験で成長した銅の腐食生成物、塗膜のふくれと塗膜下の状況等を写真で解説します。

補助教材

化学の基礎	C/D教材	共通課程の教科書を読み進め、化学記号・化学式などお忘れの場合に、お開け下さい。
-------	-------	---

専攻課程

1. 施設防食科

超高層建築物、海上長大橋、海上空港と連絡橋、地下に張り巡らされている水道管、ガス管、下水道管、建築物の中にある各種配管、石油産業を中心とした化学プラント、発電プラント、海洋・港湾鋼構造物などと施設は広範囲にわたり、環境条件も様々です。金属を多用するこれらの施設は、新設されるもの、長期間使用され補修されるものなど様々です。近年、コスト削減のために化学プラントの解放点検の延長、老朽化した設備のメンテナンスによる各種施設の運転継続などが要求され、防食検査、保全管理が重要となってきております。

当科では、これらの要求に答えるべく、施設の建設、運用、保守管理に携わる方々に、施設の防食設計、適正材料の選定法や経済的比較をはじめ、施設ごとに発生する腐食の症状と原因及びそれに対処する適用防食方法について学習するとともに、防食検査法、保全技術をもとにメンテナンスについて習得いたします。

学習分野及び科目と内容

分野	科目	科目内容
基礎論	1 施設防食設計	施設の耐久性は、設計時点ですでに決定している場合が多い。事故は起こるべくして起こっている。プラントを例に施設の防食を設計時点で考えることを学習します。
	2 耐食材料	各種施設に使われる耐食材料（金属、無機及び有機材料）について、より詳しく学習します。
	3 金属被覆 4 非金属被覆	金属によるコーティングと有機材料による防食、塗装やライニングについて学習します。
	5 電気防食 6 経済的価値論 7 環境処理	電気防食法についての原理・方法と具体的な施工方法及び応用、腐食性環境のコントロール法並びに各種防食法の経済的比較方法について学習します。
各論	8 機械装置の防食 9 埋設配管の防食 10 建築物の防食 11 橋梁・鉄塔の防食 12 石油・化学工業の防食 13 海洋・港湾施設の防食 14 船舶の防食	熱交換器・ボイラー・内燃機関等の機械装置、ガス・水道を始めとする各種配管、建築物及び建築物内配管、橋梁・鉄塔、石油プラントを始めとする化学装置、船舶、港湾施設等産業に欠くべからざる施設類の腐食原因と防食方法について学習します。
管理論	15 防食検査 16 保全管理	腐食対策を講じるには、現在の状況を把握する必要があります。 的確なデータを得るためにはどうすれば良いか。施設を安全に稼働させるにはなど、保全管理のノウハウについて学習します。

専攻課程

2. 防錆塗装科

塗装は、身近なところでは、冷蔵庫、エアコン、レンジ、洗濯機、給湯器、自転車、自動車、各種運搬機器、工事車両、また、大型構造物の橋梁、プラント、鉄塔、船舶など幅広く利用されております。金属で作成された機器、施設は、その機能を終えるまで安全に保持することが求められております。たとえば、自動車であれば、走る機能を維持するためにはボディーなどを腐食から守る必要があるとともに、橋梁であれば、鉄道、自動車を安全に通さなければなりません。

当科では、被塗装物が使用される環境及び要求される性能を把握し、特に近年、見過ごされがちな前処理の重要性について学びます。環境に配慮した塗装設計、施工管理、原価管理、保守管理、これから、ますます、重要となるメンテナンスについても防錆塗装の基礎から応用まで、国際規格を含め、講義を通じ最新内容を習得できます。

学習分野及び科目と内容

分野	科目	科目内容
基礎論	1 塗料・塗装基礎理論 2 鋼構造物用塗料 3 工業用塗料	塗膜の防食機能、塗膜の形成と劣化、仕上がり外観を理論的に、また、塗膜の防食理論となぜ塗り重ねが必要か、層間付着性はなど各塗料の特徴について樹脂別、目的別に学習します。
	4 物理的素地調整法 5 化学的前処理法	防錆塗装の良否を左右する要因として前処理は非常に重要であるため、ISOなど最新情報を基にプラスト処理、りん酸各皮膜について、理論から実務まで学習します。
	6 塗装用機器 7 塗装用機械・設備	塗装に際して使用する塗装機器、足場、塗装ガンの特性、塗装ロボットの基本、塗装ラインの設備設計について、基本事項から利用の仕方を学習します。
各論	8 鋼構造物塗装設計Ⅰ 9 鋼構造物塗装設計Ⅱ 10 工業用塗装設計Ⅰ 11 工業用塗装設計Ⅱ	橋梁、プラント、石油タンク、鉄塔などの陸上鋼構造物、船舶、ペンストック、水門などの水中・海洋鋼構造物、鉄道車輛、自動車、建材、家電製品などの具体的な塗装方法及び塗装設計方法について学習します。
	12 塗料の試験法 13 塗膜の試験法	使用する塗料の管理方法、性能検査をどのように行い安定した品質としたら良いかの各種試験方法と塗り替えの時期判定方法について学習します。
	14 鋼構造物塗装管理 15 ライン塗装管理	塗装を行うための準備機材、塗料の使用量、膜厚検査方法、塗膜欠陥の原因と対処方法、塗装コストの考え方などについて、塗装品質の管理技術について学習します。

専攻課程

3. 防錆塗装科別科（電力、通信関係）

塗装は、冷蔵庫のような家庭用品から自動車、大型鋼構造物の橋梁、プラント、送電鉄塔、電波塔に至るまで、幅広く使用されております。これらの製品や諸施設の耐久性は、防錆塗装の良否により決定されます。鉄塔などでは、溶融亜鉛めっきの消耗による鋼材の腐食が始まる前に、延命処置として塗装によるメンテナンスが重要となります。

当科では、鉄塔などの亜鉛めっき面の塗替え、メンテナンスの判定とその施工法、電力関連施設などの長寿命化によるコスト低減、通信関係施設の延命化など、学習しやすいように、被塗装物の環境把握、その塗装設計と管理手法について実務に携わる方はもちろん、管理者及び設計者の方々も、防錆塗装の基礎から応用まで習得できます。

学習分野及び科目と内容

分野	科目	科目内容	
基礎論	1 塗料・塗装基礎理論 2 鋼構造物用塗料 3 工業用塗料	塗膜の防食で要求される事項を理解して、前処理とのかかわり、流動性のある塗料がなぜ塗膜になるか、たれとの関係は、塗膜が剥がれないためには、塗膜はなぜ劣化するのか、100年防食の塗料など、塗装を行うための基礎を学習します。	
	4 物理的素地調整法 5 化学的前処理法 6 溶融亜鉛めっき	防錆塗装の良否を左右する要因として前処理は非常に重要であるため、ISOなど最新情報を基にプラスト処理、りん酸塩処理及び、各所で溶融亜鉛めっきによる防食が限界となり、塗替え塗装に入っている、亜鉛の耐食性などについて理論から実務まで学習します。	
	7 塗装用機器 8 塗装用・機械設備	塗装に際して使用する塗装機器、足場、塗装ガンの特性、塗装ロボットの基本、塗装ラインの設備設計について、基本事項から利用の仕方を学習します。	
各論	9 工業用塗装設計 10 鋼構造物塗装設計 I-① 11 鋼構造物塗装設計 I-② 12 鋼構造物塗装設計 II	鉄塔、電力施設、橋梁、プラント、海洋構造物、鉄道車両、自動車、家電と実例をもとに設置される環境に応じた塗装設計方法と工程について学びます。	
	試験法	13 塗料・塗膜の試験法	使用する塗料の管理方法、性能検査をどのように行い安定した品質としたら良いか、塗料の状態の試験、塗装後の試験方法について学びます。
	管理論	14 鋼構造物の塗装管理 15 鋼構造物メンテナンス	塗装を行うための準備機材、塗料の使用量、膜厚検査方法、また、鉄塔を主に塗替え時期の決定方法など具体的手法とその管理手法について学びます。

専攻課程

4. めっき科

めっきは、大型構造物（橋梁・鉄塔など）の耐久性を向上させる目的以外にも、様々な目的で幅広く使用されています。自動車や建築物においては、意匠性、耐食性を向上する目的で、電子機器・電気製品などに対しては、機能性、耐食性を付与する目的で使用されます。

当科では、始めにめっき製品を設計する上での最適設計法と、めっき前処理法の学習を通して、めっき施工の基本を身に付けます。各論では、電気めっき、化学めっき、真空めっき、貴金属めっき、合金めっき、機能めっき、金属溶射など、それらの防錆性能や腐食特性について学習するとともに、陽極酸化（アルマイト）、金属着色、拡散浸透についても学びます。

そして、各種規制、安全管理なども学習しますので、めっき製品を発注する側、製造する側、いずれの方にも幅広い知識が習得できます。

学習分野及び科目と内容

分野	科目	科目内容
基礎論	1 めっき概論	めっき技術の習得に必要な電気化学の一般的基礎と工業的に効率の良いめっきについて学習します。
	2 めっきデザイン 3 前処理	めっき製品の最適設計並びにめっきを施す前の研磨、脱脂、酸洗、活性化等について学習します。
	4 電気めっきⅠ 5 電気めっきⅡ 6 貴金属めっき・合金めっき	銅、ニッケル、クロム、亜鉛、すずめっきや、金、銀、ロジウム等の貴金属めっき並びに合金めっきについて、その処理方法と皮膜の特性を学習します。
各論	7 化学めっき 8 陽極酸化 9 金属着色	プリント基盤に用いられる化学めっき、軽量化金属として需要が高まっているアルミニウムの陽極酸化、各種着色方法について学習します。
	10 熔融めっき 11 金属溶射 12 真空めっき・拡散浸透	めっき鋼板や各種鋼構造物に用いられる熔融めっき、近年注目されている溶射技術、電子産業で多用されている真空めっき、拡散浸透の理論から応用までを学習します。
	13 試験法	各種めっきの試験評価方法について学習します。
管理論	14 工場管理 15 環境対策・安全衛生	めっきライン設計、品質管理体制、コスト対策などめっきに関するあらゆる管理技術並びに環境対策、安全衛生、劇毒物などについて幅広く学習します。

専攻課程

5. 防錆包装科

近年の地球温暖化により、例年になく気温の上昇のほか、湿度の上昇も見られるようになってまいりました。そのため、工場内での仕掛品のさび、倉庫内保管中のさびなど、さびによるトラブルが増加しております。

部品の国際入札や生産の国際分業が進み、製品の輸出入が増加することから、輸送中、保管中に適格な防錆包装が求められています。自信のある製品も送り先での開封時にさびが確認されては、元も子もありません。

防錆包装は、包装する対象物が仕掛品なのか、鉄鋼単体の加工品なのか、精密部品なのか、非金属を含めた組み合わせ部品なのか、電子基盤なのか、輸出する製品そのものなのか等と共に、包装期間、輸送方法、輸送経路により、様々な対応が必要とされております。そこで、各防錆材料の特徴を把握し、防錆油剤を組み合わせるとともに、梱包方法も考慮する必要があります。

さらに、洗浄方法、防錆油、気化性防錆剤、フィルム、包装材料、輸送中に加えられる木枠、段ボールなどの強度など、防錆包装資材の基本から応用まで学習しますので、幅広い知識を習得できます。

学習分野及び科目と内容

分野	科目	科目内容
基礎論	1 防錆包装概論	防錆包装の原理・包装方法の種類・手順など、各論に必要な包装の考えについて学習します。
各論	2 清浄剤	防錆包装に必要な前処理剤及び防錆処理について、工程順に清浄剤から防錆油剤、気化性防錆材、可はく性プラスチック、脱酸素剤、フィルム、加工紙、乾燥剤、テープ類にいたるまでそれぞれの特徴と適用方法について詳細に学習します。
	3 防錆油剤	
	4 気化性防錆材Ⅰ	
	5 気化性防錆材Ⅱ	
	6 その他の防錆材料	
	7 フィルム・加工紙	
	8 乾燥剤・テープ類	
	9 前処理法	
10 個装法		
11 固定緩衝包装設計法		
12 輸送容器		
試験法	13 材料・個装試験法 14 貨物試験法	包装材料の試験、防錆材料の防錆性能試験、個装後の防錆試験、貨物試験について総合的に学習します。
管理論	15 包装管理	包装管理の目的、包装管理組織、包装費用の総合的な考え方について学習します。

防錆技術学校講師一覧表

(令和6年10月現在)
(敬称略・五十音順)

會田 敬三

(株)イーバック 技術課 次長代理

赤嶺 健一

(株)IHI 技術開発本部 技術基盤センター 主幹
博士(水産科学)

審良 善和

鹿児島大学学術研究院 理工学域工学系 准教授
工学博士

阿相 英孝

工学院大学先進工学部 教授 博士(工学)

厚地 一郎

(株)関東アスコン 代表取締役

伊澤 周平

栗田工業(株) イノベーション本部
宇宙の水プロジェクトグループ 開発課 課長

今田 克己

今田包装技術企画 代表

居安 隆志

栗田工業(株) CSVビジネス事業部
内陸・空調冷却水技術課 工学博士

岩崎 保紀

奥野製薬工業(株)総合技術研究部 第七研究室 室長

植松謙一郎

王子エフテックス(株) 品質保証部グループマネージャー

梅戸 博英

ディップソール(株) 研究技術開発本部 技術開発部
技術課 課長

大熊 勝実

千代田化工建設(株) 品質管理部 専門長

岡田 卓

日本ペイント・インダストリアルコーティングス(株)
技術本部 GIU第一技術部 プロジェクトリーダー
工学修士

小俣 一典

日本ビジネスロジスティクス(株)
包装ソリューション事業部 部長

京 将司

材料システム研究所 所長 博士(工学)

久保 尊嗣

日本ペイント・インダストリアルコーティングス(株)
技術本部 商品技術 第一技術部

桑田 透

アネスト岩田(株) コーティング開発部 マネージャー

小杉山江里奈

(一社)日本防錆技術協会 技術部 業務部 兼任 係長

後藤 大

日本防蝕工業(株) 技術開発部 部長 技術士

齊藤 宏

(一社)日本防錆技術協会 専務理事 兼 事務局長
工学修士

酒井 哲也

日本大学生産工学部 教授 博士(工学)

坂内 恒雄

坂内技術士事務所 代表 工学修士、技術士

坂本 達朗

(公財)鉄道総合技術研究所 材料技術研究部
防振材料部 博士(工学)

篠原 正

元(国研)物質・材料研究機構 特別研究員
博士(工学)

柴田 守

アイ・エス工業(株) 代表取締役

鈴木 雅彦

(株)東北ウエノ 代表取締役

鈴木 雅洋

(地独)東京都立産業技術研究センター
特任技術アドバイザー 名誉フェロー

高崎 新一

元栗田工業(株) 工学博士

高橋 慶

NX商事(株) ロジスティクス・サポート事業部
品質管理部 部長

高橋 裕美

日本化工機材(株) 技術本部 R & Dセンター
アシスタントマネージャー

竹村 昌太

(地独)東京都立産業技術研究センター
研究開発本部 主任研究員 博士(工学)

田辺 智亮

名古屋市工業研究所 表面技術研究室

谷村 浩

パナソニック(株)空質空調社 先進コアテクノロジー部

田畑 祐太

オーエム工業(株) 技術グループ 品質主任

辻 清司

APCエアロスペシャルティ(株) 包装技術部 主席

津田 昌幸

日本電信電話(株) NTT先端集積デバイス研究所 部長

土屋 博隆

土屋特許事務所 弁理士

富岡 健吾

日本ペイント(株) 技術統括本部 チームリーダー
工学修士

富山 禎仁

(国研)土木研究所 材料資源研究グループ
上席研究員 博士(工学)

永嶋 康彦

日本パーカライジング(株) 技術管理部 部長

長瀬 直樹

出光興産(株) 営業研究所 主任研究員 工学博士

長瀧 敬行

(地独)大阪産業技術研究所和泉センター
金属表面処理研究部 主任研究員 博士(理学)

中原 正大

中原材料技術研究所 代表 博士(工学)

根本 憲一

根本技術士事務所 所長 技術士

橋本 永手

東京理科大学 創域理工学部 講師 博士(工学)

濱田 秀則

九州大学大学院 社会基盤部門 教授 博士(工学)

平山 良夫

平山技術士事務所 所長 工学修士、技術士

比留川伸司

(一財)日本塗料検査協会 検査部長 修士(理学)

福里 亨

JFEエンジニアリング(株) 導管事業部 課長

福田 敬祐

日本防蝕工業(株) 大阪支店 技術部 部長

藤田 栄

北海道大学大学院 客員教授 工学博士

藤村 一正

元石原ケミカル(株) 修士(工学)

二木 崇

味の素(株)バイオ・ファイン研究所 主任研究員

星野 雅彦

(株)ナカボーテック 商品開発部 課長 博士(工学)

細川 長幹

アドコート(株) 技術部 開発課 課長

細田 友騎

日本カニゼン(株) 技術部 研究開発室 係長

前田 将克

日本大学生産工学部 教授 工学博士

前山 和弘

(一社)日本防錆技術協会 技術部 業務部 兼任 係長
工学修士

政野 誠治

カンメタエンジニアリング(株) 技術部 参与

松野 英則

大日本塗料(株) 構造物塗料事業部 専任部長

松本 倫毅

(一財)日本塗料検査協会 西支部 検査部 部長代理
工学修士

三谷 誠

関西ペイント(株) 建設塗料技術部 グループリーダー

宮川 正広

富士ゲル産業(株) 営業部 課長代理

宮崎 香

(有)宮崎塗装工業 代表取締役

村瀬 正次

JFEテクノリサーチ(株) 機能材料ソリューション本部
環境耐久性腐食解析センター センター長 工学博士

村田 和也

鹿島建設(株) 建築管理本部 建築設備部 専任部長

元木 伸治

日本パーカライジング(株) 製品事業本部

諸岡 祐弥

中部キレスト(株) 研究部 商品開発課 課長

山口 明久

千代田化工建設(株) 品質管理部 シニアコンサルタント

山口 学

富士レジン工業(株) 技術部 次長

山路 徹

(国研)海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術
研究所 構造研究領域 領域長 工学博士

山中晋太郎

日本製鉄(株) 技術開発本部 表面処理研究部 課長

山本 勝美

元日揮(株) 工学博士

山本 浩史

ユケン工業(株) 化学品事業本部 化学品技術グループ
技師補

米丸 啓介

清水建設(株) 技術研究所 建設基盤技術センター
内外装グループ 主任研究員 博士(工学)

渡邊 秀人

小島化学薬品(株) 表面技術部 取締役

募 集 要 項

- ◆ 募集科名(専攻)と募集人員

施設防食科	150名
防錆塗装科	150名
防錆塗装科別科	100名
めっき科	50名
防錆包装科	50名
- ◆ 受講資格 高等学校卒業程度の学力を有する方
- ◆ 募集期間 令和6年10月25日(金)～令和7年3月25日(火)
- ◆ 特別会費(受講費)

受講区分	一 般	正 会 員 ^{☆☆}
新 規	214,500円 消費税(19,500円)	193,600円 消費税(17,600円)
追加・既 [☆]	113,300円 消費税(10,300円)	99,000円 消費税(9,000円)

(消費税10%込)

- ☆追加とは : 専攻科を同時に複数受講される場合
- ☆既とは : すでに当学校を修業された方が他の専攻科を再度受講される場合
- ☆☆正会員とは : 次頁に記載されている当協会正会員会社の社員が受講される場合
- ◎特別会費(受講費)には、副教材として月刊技術誌「防錆管理」誌など学習に必要なすべての費用が含まれます。
但し、旅費・交通費・宿泊費・郵送費などは、各自のご負担となります。

受講手続きについて

◆ 受講手続き

1. 入学願書 本人がかい書で記入して、学校事務局へ郵送してください。
2. 写真1枚(縦3cm×横2.4cm) 正面上半身、脱帽、無背景、3か月以内に撮影したもの。裏面に氏名を明記の上、入学願書の写真貼付欄に貼り付けてください。
3. 特別会費(受講費)申し込み時に納入。(納入された受講費は、返還いたしません。) 申込時に受講費の納入が難しい場合には、令和7年4月11日までに納入してください。



入学願書

◆ 特別会費(受講費)納入方法

1. 銀行振込 : 三菱UFJ銀行 本店 当座 7658372
(口座名 : 一般社団法人日本防錆技術協会)
(登録番号 T7010405010537)
2. 現金書留 : 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 (機械振興会館)
一般社団法人日本防錆技術協会 学校事務局宛
Tel 03-3434-0451

(一社)日本防錆技術協会 正 会 員

(令和6年10月現在)

EARTH CREATE (株)	(株)ケツト科学研究所	中国塗料(株)	(一社)日本パルスレーザー振興協会
アイ・エス工業(株)	(株)ケミコート	中部キレスト(株)	日本防蝕工業(株)
愛知製鋼(株)	三喜工業(株)	千代田化工建設(株)	日本メカケミカル(株)
(株)アサヒ	(株)サンコウ電子研究所	(株)デーロス・ジャパン	(株)新来開発
アドコート(株)	(株)C S J	東亜ディーケーケー(株)	パーカー加工(株)
アロウイング(株)	J F Eエンジニアリング(株)	東京ガスネットワーク(株)	(株)パルテック
(株)イーパック	J F Eスチール(株)	東京電設サービス(株)	東日本電信電話(株)
出光興産(株)	J F Eテクノロジーサーチ(株)	東京メタリコン(株)	(株)日立製作所
WINOA IKK JAPAN (株)	城北化学工業(株)	(株)トウベ	(株)ヒット・インターナショナル
上村電建(株)	(有)昇和産業	(株)ナカボーテック	(株)星野産商
A P Cエアロスペシャルティ(株)	ショーワ(株)	日鉄エンジニアリング(株)	堀富商工(株)
(株)エコクリーン	(株)白浜工業	日鉄建材(株)	マグニジャパン(株)
NOFメタルコーティングス(株)	新糸満造船(株)	日鉄鋼板(株)	三井金属鉱業(株)
E N E O S (株)	新東工業(株)	日鉄テクノロジー(株)	三菱ガス化学トレーディング(株)
(株)エムテック	神東塗料(株)	日鉄防食(株)	(有)宮寄塗装工業
王子エフテックス(株)	スギムラ化学工業(株)	日東電工(株)	モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社
(有)沖縄建装工業	制研化学工業(株)	日本製鉄(株)	
(株)沖縄神洋ペイント	綜研テクニックス(株)	日本ペイント(株)	山川産業(株)
カシュー(株)	第一高周波工業(株)	ニトックス(株)	山文油化(株)
関西ペイント(株)	大同化学(株)	(一財)日本ウエザリングテストセンター	油化産業(株)
(株)関東アスコン	大日本塗料(株)	日本化学産業(株)	ユケン工業(株)
カンメタエンジニアリング(株)	タイユ(株)	日本化工機材(株)	ユシロ化学工業(株)
北日本防食(株)	大洋シーアイエス(株)	日本カニゼン(株)	(株)ユタカ産業
共栄社化学(株)	大和化成(株)	(一社)日本鋼構造協会	(株)ゆにてつくす
キレスト(株)	(株)竹中工務店	日本テストパネル(株)	横浜ガルバー(株)
(一社)クリーンレーザー工法協会	タマガワ(株)	(一財)日本塗料検査協会	吉川工業(株)
恵和(株)	中央工産(株)	日本パーカラライジング(株)	ローバル(株)

● 本 部

● 中 部 支 部

● 関 西 支 部

● 沖 縄 支 部

受講のお問い合わせ・お申し込みは

一般社団法人 日本防錆技術協会学校事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号
(機械振興会館309号)

TEL (03) 3434 - 0451 FAX (03) 3434 - 0452

E-mail : jacc@jacc1.or.jp

<http://www.jacc1.or.jp>



